

# 公益財団法人 日本骨髄バンク 第 67 回 業務執行会議 議事録

開催方法：新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、事前配布資料に対する意見を事務局が電子メールで受け取り、取りまとめる形で開催することとした。

日 時：2020 年（令和 2 年）4 月 10 日（金）～17 日（金）

電子メールによる意見の受付、集約期間審議

出席者（メール審議参加者）

：小寺 良尚（理事長）、加藤 俊一（副理事長）、佐藤 敏信（副理事長）  
浅野 史郎（理事）、鈴木 利治（理事）、大久保 英彦（理事）、金森 平和（理事）  
高梨 美乃子（理事）、高橋 聡（理事）、谷口 修一（理事）、橋本 明子（理事）  
小野 高史（監事）、梶村 岳央（監事）

事務局：五月女 忠雄（事務局長）、渡邊 善久（総務部長）、折原 勝己（ドナーコーディネート部長）  
小島 勝（広報渉外部長）、小川 みどり（移植調整部長 兼 新規事業部長）  
吉川 亜子（ドナーコーディネート部 指導研修 T L）、関 由夏（関東地区事務局地区代表）  
上原 淳（総務部）（順不同、敬称略）

## 1. 理事長挨拶開会

電子メール審議前に、小寺理事長からメールで以下の趣旨の挨拶があった。

「本日は令和 2 年度最初の業務執行会議の日であるが、時節柄メール審議を余儀なくされた。（事前に郵送した議案は）すべて報告事項であり、多くの方からご承認いただいたことに安堵している。緊急事態宣言（7 都府県対象に 2020 年 4 月 8 日発令）以降、当法人が対処しなければならぬ大半の問題が、移植調整部とドナーコーディネート部（以下、ドナー部という）に降りかかっている。臨時に設定した危機管理委員会※ 1 を中心に厚生労働省移植医療対策推進室と協議しつつ対処している。施策は当法人ホームページ（以下、HP という）に随時掲載している。ご覧いただき、皆様からご意見を賜りたい。緊急事態宣言による外出自粛は 2020 年 5 月 6 日以降も続く恐れがあり、5 月 8 日に予定していた次回の業務執行会議は、状況に応じて ZOOM 会議を検討する。その際には協力してほしい」

※ 1 理事長、医療委員会委員長、ドナー安全委員会委員長ら数名で構成。任期は当面 4～6 月

## 2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により本業務執行会議が成立した。

## 3. 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により業務執行会議の議長は理事長が当たるとされており、小寺理事長が議長に選出された。

## 4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により議長及び出席した副理事長が記名押印する。メール審議の本会議も小寺理事長と加藤副理事長、佐藤副理事長がこれに当たるとされた。

## 5. 議事録確認

通常理事会（2020年3月13日）の議事録案を全会一致で了承した。

〔議事〕

## 6. 報告事項（敬称略）

### (1) 「緊急事態宣言」発令に伴う現状報告

コロナ禍拡大防止に向け「緊急事態宣言」が発令された。現在、理事長の指示を仰ぎつつ厚労省やその他関係者と相談をしながら事業を進めている。4月8日時点の業務状況と主な対策を報告する。

- ・「緊急事態宣言に伴うコーディネート業務マニュアル」作成
- ・ドナーや患者、病院関係者、自治体などからの問い合わせ応答
- ・厚生労働省や海外バンク、関係団体との情報交換や調整（随時）
- ・医療委員会、ドナー安全委員会など各委員会との連絡（随時）
- ・コーディネーターへのマスク、消毒液など必要物資の継続的確保と供給
- ・会議体のメール審議およびWEB会議開催の実施・検討
- ・全国の地区普及広報委員・説明員に対して登録会参加の自粛※2を要請
- ・献血ルーム契約説明員の休業※2（新宿、渋谷、名古屋駅前など全国6カ所）
- ・中央事務局勤務の全ボランティアを休業※2
- ・当法人HPでの各種アナウンス（随時）
- ・対象地域の中央事務局、地区事務局（関東、近畿、九州）の一部職員自宅待機
- ・一斉感染を防ぐための職員分散配置（中央事務局）

※2 期間は当面。今後の情勢次第で解除を判断。

状況は時々刻々と変化しており、随時見直す。今後も事業を適切に遂行すべく、ドナーやコーディネーター、職員の安全を優先しつつ可能な限り努力する。

（主な意見）

骨髄バンク事業継続に携わる職員やコーディネーターに対し、励ましと称賛の声が多く、理事や監事から寄せられた。

### (2) 全国大会 2020in 広島および30周年記念大会進捗状況報告

今年度の全国大会（広島市）の現時点のプログラム企画案を、また2021年度の30周年記念大会（東京）の会場を予約したので報告する。骨髄バンク推進全国大会を毎秋開催している。2020年は9月26日（土）午後、翌年の30周年記念大会は2021年10月2日（土）午後にそれぞれ開催する。コロナ禍により流動的要素はあるが、4月8日現在の企画進捗状況を報告する。

■開催概要案（2020年4月8日現在）

2020年9月26日（土） 骨髄バンク推進全国大会 2020in 広島

会場 広島 JMS アステールプラザ（中区民文化センター）中ホール

2021年10月2日（土） 30周年記念大会

会場 イイノホール（東京・霞が関）

#### ■広島大会プログラム案

・第1部 式典と事業報告

・第2部 講演

→講師想定 医師、移植経験者、ドナー経験者、地元ボランティア（広島国際大の学生）ら

・第3部 イベント

→内容 集客につながるイベントを準備委で企画する。地元で集客力があるプロ野球広島カープの協力を仰ぎ、成人T細胞白血病で闘病中の北別府学氏の応援企画などを検討中。フィナーレで翌年10月の30周年記念大会をPR

次回の準備委員会（大久保英彦委員長）を2020年5月11日（月）に開催予定

### (3) 第一生命「保健文化賞」推薦の報告

第一生命保険株式会社が主宰する「保健文化賞」に高知県骨髄バンク推進協議会を推薦する。高知県骨髄バンク推進協議会（以下、高知協議会という）は高知黒潮ライオンズクラブが中心となって、長年にわたり骨髄バンク普及活動を実施している。高知県は骨髄バンク運動が活発で、2015年には全国大会を開催して約600名の来場者があった。高知協議会は27年連続で骨髄移植講演会を実施しており、バンク説明員資格を有する会員が登録会の現場で実績をあげている。大久保英彦理事より推薦いただいた。高知県協議会への推薦は、当法人以外に複数の団体が実施する。過去には当法人からの推薦により、大谷貴子氏（当法人評議員）が同賞を受賞している。

・保健文化賞の対象団体

健康増進・疾病予防などの保健医療分野、高齢者・障がい者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した地道で身近な活動や実際的な活動をしている団体（原則として10年以上の活動実績が必要）

・応募締め切りと発表

2020年4月17日（金）締め切り。9月上旬に審査・発表予定。

### (4) ロシア骨髄バンク会議参加報告

2020年3月12日と13日に、ロシアのレジストリーがモスクワで開催した国際会議に小川みどり移植調整部長が招請され、日本の骨髄バンクに関して説明した。主な内容を報告する。

会議名：第2回 Conference on Russia Bone Marrow Donor Registers in Moscow

日時：2020年3月12、13日

場 所：モスクワ市内会議場

主催者：ロシア国内のチャリティー財団「Rusfond」

参加数：104名（当初150名を予定。コロナ禍により46名キャンセル）

参加団体：National Bone Marrow Donor Registry（ロシア）、  
Armenian Registry of Bone Marrow Donors（アルメニア）、  
Berarusian Register of Potential Donors（ベラルーシ）、  
City Hospital of Saint Petersburg（ロシア）、  
omixon（NGS法HLA検査試薬メーカー）、他

内 容：

### 1. ロシアの骨髄バンク事情（同会議開催の背景）

ロシアにはもともと10以上のレジストリーが存在しており、5年前までドナー情報を各レジストリーで別々に管理していた。このため、患者がドナーを探すのに、非常な時間と労力がかかっていた。最近では、政府主体とチャリティー財団（Rusfond）主体の2グループに分かれて運営している。今回の会議はRusfond主体グループが開催した。

	政府主体	Rusfond 主体
設立からの年数	25年	2年
ドナー登録数	90,000人	35,000人

ドナー自身はどちらに登録したか知らない。Rusfondはドナー数が急速に伸び勢いがある。

患者の利便性を高めるため、Rusfondは2グループの統合を目指しているが、政府は主導権を譲らず速やかな統合は困難。政府から資金を得て、Rusfondが骨髄バンクを運営しようという声が多くあがった。また、国内で骨髄バンクの認知度が低いため、周知に力を入れようとしている。

### 2. ロシア以外の国のバンク事情

コロナウイルス感染拡大により、直前にドイツ、フランス、イタリアのレジストリーが欠席となった。

#### （1）カザフスタン

設立2年で40,000人がドナー登録した。移植施設が3か所しかないことが課題。

#### （2）イスラエル（コロナ禍によりイスラエルからWEB参加）

ドナー登録者は100万人以上（人口870万）で、成人の6人に1人がドナー登録者。背景には、小学2～3年生時から「他人のためにできることは何か」「ドナーになるのは素晴らしい」といった学校での教育がある。

### 3. JMDPに関するプレゼンテーション

当法人の歴史、現状、取り組み等を説明した。

<参加者の感想>

- ・移植施設が多く、患者が遠方まで行かずに移植できる点が素晴らしい
- ・政府や他機関と連携した運営が成功している点を見習いたい

・ドナーリクルートへの取り組み、進行中ドナーへの説明書がとても参考になる など  
<参加者からの質問>

・移植後の患者とドナーは交流できるのか

・対面を禁止している理由は何か

・なぜこんなに採取（移植）が多いのか など

#### 4. 患者とドナーの対面イベント

患者：若いロシア女性（ロシアではドナーが見つからず、7年前にイスラエルで移植）

ドナー：若い男性（ドイツで採取）

ロシアでは、移植から2年経過して患者・ドナー双方が希望し事務局に認められれば、個人情報交換できる。ドイツも同じルールを採用している。これまでに写真は交換していたが、会うのは初めて。

#### 【雑感】

ロシアは様々なルールを今後作っていく段階で、新しい事業が始まる黎明期の熱気を感じた。全参加者が良いバンクにしようとする活発な議論を重ねている姿が印象的だった。今回のプレゼンを通じて、JMDPは海外バンクに提供できる価値ある（見本となる）情報が非常に多く持っていることを実感した。

#### (主な意見)

<大久保> 資料が詳しくわかりやすかった。今後の講演会などに活用できると思う。今後も海外で積極的にPRしてほしい。

### (5) 寄付金報告

3月の寄付は件数706件、金額は1583万8236円。4月から3月の年度累計額は1億3961万9776円（10275件）である。

#### (主な意見)

<大久保> 令和元年度累計件数が10275件と前年比で1100件以上増えている。世の中の関心が高まっていることを実感する。ドナーや寄付者の方へ当法人への信頼を醸成するために、バンクニュースなどを使った情報提供を引き続きお願いしたい。

### (6) 移植件数報告

2019年度累計移植件数は「国内ドナーから国内患者」が1219件、「海外から国内」が4件、「国内から海外」が8件。合計で1232件となり、昨年度比（1214件）から18件増えた。

#### (主な意見)

<大久保> 移植ソースが多様化する中で、前年度を上回る件数を確保できたのは事務局のスムーズな業務のおかげである。様々な施策も奏功していると思う。コロナ禍により、通常業務に支障が出ており注意も必要になる。一人でも多くの患者の救命に向け、今後も事務局一丸となって業務に励んでほしい。

以 上